Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan

京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

かがやき

Vol.93
2026
10月

令和８年度 第３回共同機構研修会

往還型の研修　～子どもの困りを読み解き支援を考える～



講師　岡崎　達也さん（公社）京都市児童館学童連盟事務局主任厚生員統合育成担当

発達特性からくる子どもの困りをテーマに実施しました。それぞれの園の子どもの姿から事前にアセスメント行い、研修当日は、講義を聴いたり、グループ討議で子どもの困りを多面的に捉え、アドバイスをし合ったりして子ども理解を深めました。子どもへの思いや、関わり方へのお悩みなど受講者で共有し合い、共に学び合う研修となりました。また、岡崎先生から一つ一つのケースに直接アドバイスもいただけました。

① 事例検討シートの記入 → ② 事前に同グループの事例を共有 → ③ 集合研修にて 講義・グループ討議・講師からのアドバイス → ④ 研修を実践に活かす → ⑤ 事後レポートの作成と共有



＜受講者のレポートより＞

グループ討議と講師からのアドバイスが大好評



初めて往還型研修に参加しました。他園の先生方とお話ができ現場ならではの同じような悩みや困りがあることを知りました。またその事象に対してリアルな対応の仕方やアドバイスなども伺えとても参考になりました。他園の先生方とのお話はとても有意義でよかったです。また事前レポートがあり自園の気になる子のケースに対して岡崎先生のアドバイスでどのような支援が必要か具体的に教えていただけた事が、わかりやすく、明日からの保育につなげていこうと思いました。
岡崎先生の講義をもっとゆっくり拝聴したいと思っていましたところ、配信があり再度聴講でき講義内容の理解を深めることができました。ありがとうございました。

こだわりへの意識が変化した！

講義からは、発達特性のある子どもたちの感じ方や考え方を理解したり、想像したりしながら関わることが大切だと学んだ。また、「こだわりが支援の糸口となったり、強みとなったりする」という話を聞き、“こだわり”というものの捉え方が変わった。それぞれがもつこだわりを肯定的に捉え、子ども自身も「自分はこれでいい」と思えるように関わっていきたいと思った。そして、発達特性の有無にかかわらず、一人ひとりの強みや課題を丁寧に見取り、それぞれのよさが活きるように援助していきたいと感じた。



事前レポートも子ども理解に役立ちました！



事前にレポートを作成することで、その子について気になってることを明確にしてから意見交換できたのが良かったです。また、他園のレポートも事前に送ってくださったことで内容をしっかり把握してから話し合いできたのが良かったです。

講師の講義はご参加いただいた先生方の園で、園内研修で活用していただけるように配信しました。再度視聴して理解を深められたとの御意見もいただきました。

ご参加ありがとうございました

第４回共同機構研修会



「０歳児からはじめる特別支援教育」
～発達障害の克服の鍵は幼児期にある～

講師　竹内発達支援コーポレーション代表　　竹内吉和さん

学習する力（認知）を「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「計算する力」「推論する力」に分類し、その正体を明らかにしながら、認知が弱い子への具体的な支援を学びました。

学習する力の一つ「聞く力」について

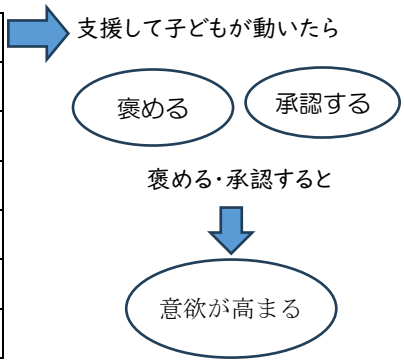
●体験「聞く力」
講師の言った数字を復唱し、自身の聞く力の確認をする。人間の復唱できる桁数は7桁が平均と言われている。
●「聞く力」の正体は？
指示が入りにくい子は、聞いたことを記憶する「聴覚記憶」が弱い。「聴覚記憶」が聞く力の正体。
↓
●聞く力が弱い子にどのように支援するか話し合う。→「視覚的手掛かり」「一緒にする」「話す前に注目させる」などの支援ができる。
↓
●具体的支援として
言葉で何度も伝える「繰り返し支援」が効果的。何度も繰り返し伝えることで9割の人が理解できる。
↓
●支援し子どもが動いた時
理解し、実行できたら、褒めることが重要。褒めることで意欲が高まる。

上記のように学習する力はどういうものなのか実際に体験し、その支援について話し合いました。認知の弱さの正体を明らかにし、それに基づき支援することで、子どもが動いたら褒めて意欲を高めていくことが特別支援教育の枠組として重要ということをお教えいただきました。

◆6つの学習する力（認知）の正体、それに対する支援をまとめた表

	学習する力	（学習する力の）正体	（弱さへの）支援
1	聞く力	聴覚記憶	視覚的手がかり　繰り返し支援
2	話す力	類似	選択肢
3	読む力	スピード	代読
4	書く力	不器用さ	時間　見守り
5	計算する力		
6	推論する力	過去のデータを活かす力	結論を先に　　手立てを添える

※5計算する力については時間の都合で、今回の内容には含まれませんでした。



アンケートより



「例えば」の話が分かりやすく、ペアでディスカッションをするときに、話しやすかったです。保育をする中で、振返りをしながら学ぶことができて良かったです。職場に持ち帰り研修内容を伝えたいと思います。



とても楽しく分かりやすい研修をありがとうございました。支援の必要な子の見方が変わり、関わり方についても参考になりました。



参加型の研修だったので、色々な意見が聞けて良かった。久しぶりに実践がたくさんの研修で楽しんで学べました。



初めて参加しました。大変興味深く、勉強になりました。認知が弱い子どもに対する具体的支援が分かりました。ワークが多く、頭を使いながらも、現場に合った支援方法を具体的に教えてくださり実践してみたいと思えました



とても面白くて「なるほど」と思う研修でした。最後の計算する力まで聞けなかったのが残念でしたが、もっとゆっくりたっぷりお話を聴きたいと思いました。一番、楽しく学べました。

第５回共同機構研修会（学校指導課・幼保総合支援室・こどもみらい館合同研修）

子どもの育ちと学びをつなぐ 幼保小の架け橋プログラム ～連携・接続を進めるために実践事例から学ぼう～

小学校の教員50名、就学前施設の保育者 44 名、関係機関職員 20 名、の計 114 名が参加し、幼保小の架け橋プログラムについて学びました。

●実践報告：洛中小学校、朱雀第一小学校、六満こども園、光明幼稚園、朱一保育園

各所属から代表の先生が２校3園で取り組む架け橋プログラムの実践について御報告いただきました。

報告内容：架け橋プログラムのスタート期に「地域で育てたい子ども像」を共有したこと、2校3園での取組となった経緯、スタートカリキュラムの充実、子ども同士の交流について、幼保側から見た小学校への架け橋などについて



●グループ協議：架け橋プログラムの推進について、就学前施設の保育者と小学校の教員がグループ協議

・実践報告と自校・園（所）の取組を比較、今後に活かしたい。
・幼保小で共通点を見出していく重要性を理解した。
・持続可能な取組とするには学校全体で架け橋プログラムを共有したい。
・交流の振り返りの話し合いがなかなかできない、そこで振り返りシートを活用している。
・ねらいを共有して、意義のある交流にすることが大事。など各グループで熱気あふれる協議になりました。

●幼保小の架け橋コーディネーターによるまとめ・指導助言

〇幼保小の架け橋プログラムの意義について

〇実践報告より特筆すべき点について

・架け橋ミーティングで、目指す子ども像の共有、年間計画の作成や確認をすることで、２校３園で取組が可能に。
・ねらいを明確化し、互恵性のある取組になるよう子ども同士の交流を行っている。
・小学校は保育参観（幼児教育）から、教室の環境整備、子どもの思いを丁寧に聞く、話し方（声のトーン）、自主性を大切にし、子どもに考えさせる、タイミング（子どもの見取り）などを学んでいる。
・スタートカリキュラムで大事なことは、安心感、自己発揮、環境を整えること。弾力的な時間割、合科的・関連的な指導。
・公開授業・保育、合同研修会の意義は、自身の保育・教育を見つめる場、全校園体制の取組になる。

〇おわりに

・架け橋の最終的な目的は、主体的・対話的で深い学びの実現。互いに理解し、学び合う中で、保育・教育の質を高めること。
・架け橋のチームとして、絆を深め、持続可能な架け橋を！

アンケートより





色々な立場の方の話を聞けることがあまりなく、この研修が、自校の子どもたちのためにできることや子ども達の笑顔につながると思った。（小学校）

とても勉強になりました。各校園の取組を知ることができ、とても貴重な研修の場でした。
実践報告から架け橋プログラムで大事にしたいことを改めて学ぶことができました。ありがとうございました。（幼保）

とても学びの多い研修でした。毎年この形、内容での研修を希望します。繰り返し、積み重ねることで、幼保小の連携につながるのではないかと思います。（幼保）

架け橋期の大切な内容、プログラムの目的、意義が良く分かりました。チームとして持続していくこと、社会が一体となって子どもを育てていくことの大切さが実感できました。（小学校）

第６回共同機構研修会



「遊びが学び」を生み出す保育

講師　京都教育大学教授　　古賀　松香さん

園という環境における「遊び」とは何か、「学び」とは何か、「遊びの深まり」とは何か、写真や演習問題をもとに、受講者それぞれの視点を共有する、保育について考える研修を実施していただきました。



（演習例）

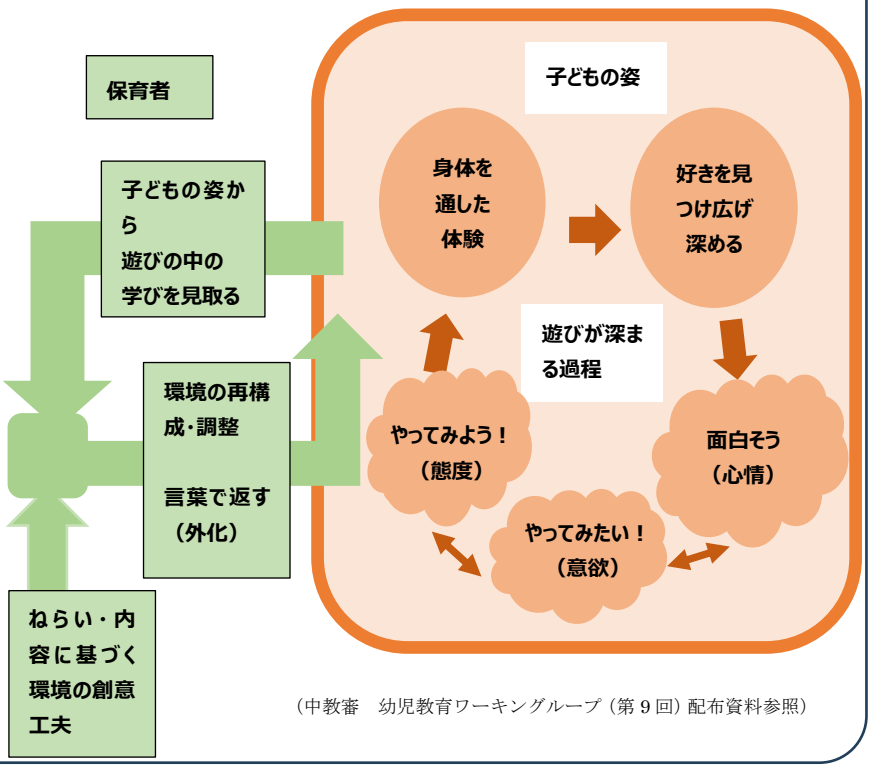
・保育室の写真から、０歳児がどのように遊び、何を学ぶことを意図して環境構成されていると考えられますか。

・環境を通した保育において、０歳児が自発的な遊びを通して学ぶことを大切にしようとするとき、どのような環境構成の工夫が重要になるでしょうか。

子どもたちは、健康で安全な園生活の中で、自身の存在が認められている安心感や周囲の大人への信頼感が支えとなって、自己を発揮し、環境に関わり、自らの世界を広げていきます。自ら関心を持って周囲の世界に関わろうとすることこそが、乳幼児期における「遊びのプロセスそのもの」です。子どもたちは遊んでいますか？

遊びは右の図のような循環で深まっていきます。保育者には右図にある専門的な働きかけが求められます。この実践の要となるのが保育者の見取りです。見取りをすることから、環境の工夫や、遊びの深まりへの援助が始まります。

子どもたちは「世界の発見者」です。子ども自身の心が動く瞬間を大切に受け止め、共に遊びを楽しみながらその探究を支えていきましょう。



（中教審　幼児教育ワーキンググループ（第９回）配布資料参照）

アンケートより



様々な園の方と意見交換ができ、もっと保育につなげていきたいことがたくさんできました。遊びが学び、遊びの大切さも感じました。



子どもの遊びの中の学びを見取ることが大切だとよく聞きますが、その見取りには、保育者や教師が子どもの目線になって一緒に楽しむこと、何を楽しんでいるのだろうと大人がワクワクして見ることが大切だと感じました。とても楽しい演習と共に聞き入るお話をありがとうございました。



部屋の環境をもう一度再構成、見直したいと思った。子どもの見取り、ともに楽しく遊ぶ、をもう一度心して明日からの保育に活かしていきたいです。

第６回共同機構研修会

【アーカイブ配信決定！】

定員を大きく超える多くの方に受講いただき、誠にありがとうございました。

ご好評につき、11 月に配信いたします。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より

「はぐくみ文化」を未来の京都へ

この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！

発行日　令和8年10月15日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel ： (075)254-5001　　Fax ： (075)212-9909
URL ： https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/